

QUARTERLY REPORT

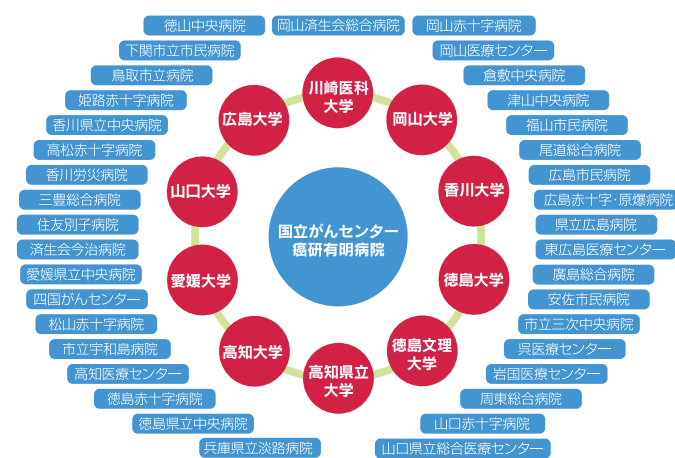


VOL.49
2017. MAR

MANAGING OFFICE
2-5-1, SHIKATA-CHO, KITA-KU
OKAYAMA 700-8558 JAPAN
PHONE:086-235-7023 FAX:086-235-7552
<http://www.chushiganpro.jp/>

趣旨・組織

がんは、わが国の死亡率第1位の疾患ですが、がんを横断的・集学的に診療できる専門家が全国的に少なく、その養成が急務とされています。また、近年の高度化したがん医療の推進は、がん医療に習熟した医師、薬剤師、看護師、その他の医療技術者等(メディカルスタッフ)の各種専門家が参画し、チームとして機能することが何より重要です。そのため、がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医師及びがん医療に携わるコメディカルなど、がんに特化した医療人の養成をおこなうため、大学病院等との有機的かつ円滑な連携のもとにおこなわれる大学院のプログラムが「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」です。



中国・四国全域に広がる拠点病院
組織的・効率的ながん治療の均てん化の実行組織

■ : コンソーシアム参加がん診療連携拠点病院



● コンソーシアム参加がん診療連携拠点病院
● 参加大学・がんセンター

ごあいさつ

本プランは、中国・四国地域に位置する10大学がひとつのコンソーシアムを作り、各大学院に多職種のがん専門医療人養成のためのコースワークを整備し、これに地域の37のがん診療連携拠点病院が連携することにより、広い地域にムラなくがん専門医療人を送り出すことを目的としています。

がんに関わる多職種の専門医療人が有機的に連携し、チームとしてがん診療ならびに研究にあたることのできるよう職種間共通コアカリキュラムの履修を出発点として教育研修をおこないます。また、国内外のがんセンターと連携し指導的ながん専門医療人養成のためのファカルティ・ディベロップメント(FD)を連動させ、大学院教員の教育能力を強化しています。

各大学・地域の持つ特色を活かし、互いに補完・止揚する教育拠点を確立します。高度なレベルで標準化された共通コアカリキュラムおよびeラーニングによる域内統一教育(共育)と、大学間連携による大学、分野、職種をこえた専門職連携教育(協育)をおこないます。また、英語教育と海外先進施設との連携により国際的に活躍する医療人の養成と、地域医療機関・患者会との連携による在宅高齢者がん医療に貢献する専門医療人の養成をおこないます。これらの活動を通じて高度な専門知識に加え、チーム医療・リサーチマインドを身につけた全人的高度がん専門医療人が多数輩出され、中国・四国地域におけるがん治療の均てん化、標準化が実現され、各大学、地域における臨床研究や橋渡し研究の活性化を目指します。

当コンソーシアム事務局では、講演会、海外研修、学生募集などの情報を広く発信することを目的としたクォーターリーレポートを発行しています。

本誌をきっかけに、大学院入学や各種セミナーへの参加等をご検討いただければ幸甚に存じます。

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム
事務局

学生の声

中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラムの5年間でふりかえって

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム事務局長
岡山大学大学院保健学研究科 教授 松岡 順治



はじめに

中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラムが採択され、5年間の施行期間を終えようとしている。このプログラムが目指したミッションは、

1. 高度なレベルで標準化された共通コアカリキュラムおよびeラーニングによる域内統一カリキュラムによる教育（共育）を行う
2. 大学間連携による優れた指導者による大学、分野、職種をこえた専門職連携教育（協育）を行う
3. 英語教育と海外先進施設との連携により国際的に活躍する人材の養成を行う
4. 地域医療機関・患者会との連携による在宅高齢者がん医療に貢献する専門医療人の養成を行う

ことで、そのビジョンは、

中国・四国地域におけるがん治療の均てん化、標準化が実現され、患者家族のQOLが向上する社会がもたらされるというものであった。

この共育と協育による大学院教育が10の広域にわたる大学院で実際に行われたことは、従来の大学院教育を受けた私自身にとって「よくできたなあ」というのが実感である。従来の大学院教育はともすれば専門的な学問に終始し、臨床腫瘍学という観点からは完全とはいえなかった。人を対象とする臨床医学において多様性、あるいはコミュニケーションを学ばずしてその学問的発展は期待できない。その意味において中四がんプロのミッションは、多くの方々の意見を集約し、十分に練られたカリキュラムが具体化したものであると考えられる。ビジョンに示されたように、がんプロにかかわるすべての方々の思いは、がん治療の均てん化によってがん患者・家族のしあわせがもたらされることであり、それが持続可能な社会をもたらしことにある。我々には、このことを目指して今後もミッションを追求していくことが求められている。

さて、第2期中四がんプロでは378名の大学院生が入学された。がんに係る専門資格も多くの方が取得され、今後もその数は増えていくことと期待される。この点において本プログラムは十分に満足できる結果が得られたと考える。プログラムのアウトプットとしては専門資格取得者の数は重要であるが、数に表れないアウトプットも重要である。それは中国・四国地方をはじめとする全国で、教育の上で互いに協力しあう体制が確立されたことである。それは、よく知られた概念でいえば社会資本というべきものである。ある社会が発展するためには優れた構成員がいるだけでは不十分で、その構成員がお互いにつぶしあうのではなく、協調できる環境にあることが大切であるといわれている。それを実現するのが社会資本である。第2期がんプロでは、中国・四国地方の広域に亘る10大学の教育者が一堂に会して教育について論議する場が生まれた。さらに、所属の違う大学の教員と学生が肩を組み声を張り上げて歌う機会ももてた。職種の違う学生がひとつの目標に向かって協力するという研修と臨床の場を確立することができた。全国的に見れば、全国のがんプロが集まって緩和医療部会を立ち上げ、全国共通の教育資料とテストが作成された。さらに、放射線治療、臨床腫瘍学の分野でも協力体制が確立している。多くの教育者がお互いを知り、協調することが可能な土壌ががんプロを通じて醸成された。このことはがん教育において極めて重要であり、今後の教育現場を変えることができるトピックスであると考えられる。

第2期のがんプロは今後も引き続き卒業生を輩出していく予定である。関係各位におかれましては、第2期のがんプロを通じて確立された貴重な社会資本を引き続き活かすために、この5年間で培った事業基盤をさらに発展させるという目標を持って活動していただくよう祈ってやみません。

がんプロ がん専門医養成コースに入って

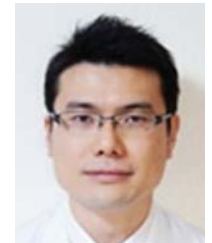
愛媛大学大学院医学系研究科医学専攻 消化器・内分泌・代謝内科学講座
独立行政法人国立病院機構四国がんセンター 消化器内科 寺尾 孝志さん



今回、寄稿依頼があり、その前に大学院での研究成果発表会の演題提出がありました。いよいよ社会人大学院がんプロコースも最終学年を迎え、入学時には年甲斐にもなく意気揚々と船出した割には、今の進捗状況に焦りを感じずにはいられません。卒業以来、主に急性期病院で勤務し、臨床で様々な知識や手技・手法を身に付けたい一心で大学には帰らず、そのうち平成11年12月から平成13年5月まで旧四国がんセンターでお世話になる機会を得ました。新しい殺細胞薬が徐々に登場し始めたところで、今ほどその有害事象への対応が確立しておらず、今以上に十分な効果が得られない時代でした。そこで出会った先生方は忸怩たる思いを持ちながら、患者さんたちは副作用にめげず、お互い何かしらの繋がりを持って、想像以上に明るく頑張っていました。他では経験し難いPhase I の治験参加もさせて頂きました。今まで人には恵まれた人生で、中でもがんセンターでの様々な経験は人・医者として欠けている部分を少し埋めてもらったように思います。患者のための臨床主導の新薬開発が夢だと言われ筑波大学教授になられた、そのころの上司の兵頭一之介先生は、今でも事あるごとに声をかけて下さり、筑波の若い先生とも交流させてくれます。研修に行かせて頂いた国立がんセンター中央病院長の齊藤大三先生は、がんセンターの医者は患者のために集うが群れないと言われ、ローテート中のレジデントたちは、生活が苦しくとも夜集まって皆夢を語っていました。誰もが夢を持ち、情のある人たちでした。医者人生も終盤になり、世への貢献にはどの経験を磨くべきかと思ひ、がんプロでの再修業を選択しました。愛媛大学血液学では治療のWait and Go、がんセンター乳腺科では臓器特殊性の悩み、呼吸器では治療開発を経験させて頂きました。皆さんあの頃の人たちと同じ思いで努めています。患者さんにその人らしい一番の頑張りを提供できるようもう一度一鞭入れなおします。

がん専門医養成コースを修了して

広島大学病院 呼吸器内科 助教 病棟医長 益田 武さん



私は平成16年に広島大学医学部を卒業し、平成21年に広島大学大学院医歯薬保健学研究科分子内科学(河野修興教授)に入学し、がん専門医養成コースを履修致しました。このコースでは臨床腫瘍学総論から統計学、バイオマーカー開発、基礎研究の手法などを学ぶことができました。さらには各がん種の化学療法を含む治療方針に加えて、緩和治療についても学ぶことができました。これらの講義は広島大学医歯薬保健学研究科や広島大学病院の先生方に講師をして頂き、大変感謝しております。

現在、私は広島大学病院呼吸器内科の病棟医長として肺がん、間質性肺炎、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息など様々な呼吸器疾患の患者さんを診療しています。ただ、皆さんもご存知のように肺がん患者さんの数は増加を続けており、当科の入院患者の半数近くを肺がん患者さんが占めています。そのため、がん専門医養成コースで学んだ臨床腫瘍学の知識が日々役に立っています。また、化学療法が各がん種で進歩する中で、肺がん以外のがん種で薬剤性肺障害を発症された患者さんを診療する機会が増えています。ここではまた、薬剤性肺炎の治療を行うのは勿論ですが、次の化学療法を施行すべきか否か、つまり次の化学療法による薬剤性肺炎再発のリスクと予後延長のメリットのどちらが上回るのかを主科の先生とディスカッションしています。この際、その患者さんががん治療の全体の経過の中でどのような状況にあるのかを把握しておく必要がありますので、がん専門医養成コースを履修した経験が大変役に立っていると感じています。

今後も肺がん患者さんに対してがん専門医養成コースで学んだ知識を生かして、最適な治療とその副作用対策、緩和治療を提供できるよう努めて参りたいと考えております。また、肺がんの臨床研究や基礎研究を行うことにより肺がん患者さんの役に立つ情報を世界に発信していきたいと考えています。

臨床腫瘍医外科系専門医養成コースを修了して

川崎医科大学 消化器外科学 講師 窪田 寿子さん



私は川崎医科大学で消化器外科医としての臨床経験を積みながら、がんプロフェッショナルコースに進みました。平成26年度に無事にがんプロ臨床腫瘍医外科系専門医養成コースを修了し、現在は川崎医科大学消化器外科学で、臨床医と教育者としてがん治療に携わっております。

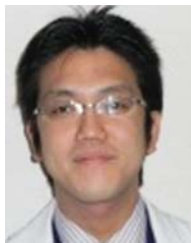
在学中、臨床経験を積みながらの限られた時間内で、自分自身の基礎研究と臨床研究を進めつつ、がん治療に携わるうえで必要なことをeラーニングを通じて学ぶという非常に濃密な大学院生活だったことが思い出されます。

eラーニングを受けることで消化器がん以外のがん疾患や治療について学ぶことができました。また、緩和ケア研修会やキャンサーボード、院内で行われる緩和ケアカンファレンスなどを通じて、医療に非常に大切なチーム医療について学ぶことができました。がんプロコースで多種多様な職種についても改めて学習することができたことは、自分自身ががん診療を行っていく上で大きな糧になっていると感じております。チーム医療は非常に大切であり、とくにがん診療においてチーム医療なくして治療を行っていくことはできないと思われまます。また、研究テーマである「がん患者に対する手術侵襲と栄養」を成し遂げるためには、チーム医療なくしてはできませんでした。管理栄養士の協力や彼女たちと討論をすることで進めることができました。

がんプロコースを修了し、知識獲得がここでとどまらないようにする必要があります。多職種の方と協力し、がん患者がよりよい医療を受けられるかを考えながらがん治療を行いたい。そして、これからがん診療を選択する可能性のある学生や若い医師に、得た知識を少しでも伝えていきたいと思っております。

がん専門医養成コースを通じて学んだこと

山口大学大学院医学系研究科 消化器・腫瘍外科学講座 助教 兼清 信介さん



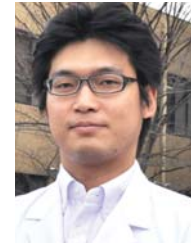
今日、21世紀を迎えて数十年が経過しましたが、未だがんの制圧には至らず、高齢化もあいまって、日本人の2-3人に1人が「がん」に罹患する時代を迎えています。たしかに、医療技術は日々目覚ましい進歩を遂げていますが、その一方で、がん治療自体も複雑多岐にわたり、何が重要で、何が重要なのか、わかりにくくなっていることは否めません。そのような状況下で、がん専門医養成コースを通じて、手術療法、放射線療法、化学療法、その他のがん医療に携わる真のがん専門医療人を養成することは非常に重要であると考えます。

私自身は、平成16年に山口大学医学部を卒業し、初期臨床研修後に山口大学大学院 消化器・腫瘍外科学講座に入局しました。地域の基幹病院で外科医としての研鑽を積んだ後、平成22年より山口大学の大学院入学と共にがん専門医養成コースに進学しました。当時は大学院生といっても、ベッドフリーとなつて研究・実験に専念するのではなく、消化器外科医師として、臨床現場でがんの治療に携わりながら、臨床と研究の両立を図っていました。その中で、がんプロ主催の講義やeラーニング、セミナー等を通じて最新の知識を得ながら、それを実臨床にフィードバックし、経験を積めた事は大きな財産となっています。また、eラーニングの充実は特に素晴らしく、一流講師の講義を、時間にとらわれることなく、繰り返し聴講できることは、時間に制約のある医師にとって大きなメリットであると感じました。

がんプロ修了後の現在は、大学の上部消化管チームに所属し、食道疾患(主に食道がん)の診療に従事しています。食道がんは現代でも予後不良な疾患であり、治療が困難な場合も多く経験します。しかしながら、がんプロで培った知識と経験を基に、何事もあきらめず辛抱強く患者さんに寄り添える医療を目指したいと思っています。食道がんを患われる方の快方を切に願い、誠の心が尽くせるように千鍛万練していく所存です。

がんプロ（緩和ケアコース）修了者として

香川大学医学部 精神神経医学講座 特命助教 石川 一朗さん



私のがんプロ緩和ケアコースを希望したのは、初期臨床研修中に受け持った様々ながん患者さんの精神的な負担やコントロール困難なせん妄を目の当たりにし、精神科医を志望した自身ができることを、より専門的に学べるのではないかと考えたことからでした。

がんプロの講義では、精神腫瘍学の基礎やがん患者・家族とのコミュニケーションなどを学び、それらは普段のリエゾン精神科医療の中でもとても役に立っています。また通常、精神科医として業務に従事している間にはほとんど触れることの無い、最新の化学療法や緩和ケアの内容を学ぶことが出来ました。私のがんプロ臨床研修制度でローテートしていた時とは治療の内容も刷新されており、がん治療分野の日進月歩を感じるとともに、自身の専門ではない分野においても知識のup to dateの必要性を痛感しました。

がんプロコースでは「チーム医療合同演習」に参加をすることが必須とされており、私も平成25年に山口県にて開催された演習に参加させていただきました。この演習では、中四国の各大学からがんプロ履修の多職種の大学院生が参加されており、様々な仮想症例に対してどのようにアプローチしていくのかワークショップを行います。その際に最も印象深かったのは、あるファシリテーターの先生の言葉です。肺がん終末期で肺気腫も併存している患者の症例で、その患者は喫煙者でした。入院され、余命幾ばくも無い状態の患者さんが「たばこを吸いたい」という希望を述べている…この場合の対応はどうすればよいのか？普通に考えるのであれば喫煙の許可などは出せません。ところがその先生は「なんでこの患者さんにたばこを吸わせてあげないの？吸わせてあげればいいのに」と話されました。もちろん現実的には病院規則や酸素療法中では…などの問題があり実現は困難かもしれませんが、しかしその考え方には患者を中心に据え、その患者と家族の希望を最も大切にするという緩和ケアの基本的な姿勢があったのではないかと感じました。

現在、私は本大学院の緩和ケアチームに属しており、精神面担当医師として活動しております。今は不眠やせん妄をメインに対応を行っておりますが、将来的にはがんプロで培った知識や経験を十分に生かして緩和ケアを要する患者・家族への一助になれるよう、さらに努力をしていきたいと考えています。

臨床腫瘍栄養学コースを修了して

地方独立行政法人徳島県鳴門病院 栄養科 川上 由香さん



私は、平成23年3月に博士前期課程を修了し、同年4月より病院で管理栄養士として働いています。平成27年3月には、博士(栄養学)を取得およびがんプロの臨床腫瘍栄養学コースを修了致しました。

病院で管理栄養士として働き始めて6年が経ちました。1年目から病院内での緩和ケアチームに所属し、多くのがん患者さんとお会いしました。治療による食欲不振や味覚の変化などへの対処法について患者さん一人ひとりに食事の聞き取りを実施しながら、少しでも食事を楽しみに思ってもらえるよう、少しでも栄養状態の低下が起こらないように努めています。博士後期課程に進学した際、がんプロコースで学ぶことを決めたのも、患者さんの力になるために専門的な知識をさらに身につけたいと感じたからです。

近年はテレビやインターネットを通して色々な情報を得ることが出来るため、自分自身で自分のがんについて調べてから栄養相談に来られる方が多くいらっしゃいます。栄養相談をしている際、「この食品はがんにも効くと聞いた」という言葉を耳にすることが多くあります。このような患者さんの問いに、エビデンスのある専門職としての回答をするためにも、がんプロコースで学んだことを活かしていきたいと思っております。

日本病態栄養学会・日本栄養士会では、がん病態栄養専門管理栄養士の認定制度が行われています。また、平成28年度の診療報酬改定では、がん患者に対する治療食の指導が栄養食事指導料の算定対象に追加となりました。本年、がん病態栄養専門管理栄養士の資格も取得したので、食事指導を通して患者さんの治療の手助け、QOLの維持・向上につながるよう努めていきます。

がん放射線科学コースを修了して

京都第一赤十字病院 放射線治療科部 井俣 真一郎さん



私は、平成24年4月から社会人大学院生として岡山大学大学院保健学研究科博士前期課程に進学し、がんプロがん放射線科学コースで2年間学びました。きっかけは、岡山大学病院にて放射線治療業務に従事していたため医学物理士に興味があったことと、職場でお世話になっていた上司の薦めでした。がんプロの講義は、平日の大学院の講義とは別に行われており、基本的に土曜日の朝から夕方まであり、がん治療(手術、化学療法、放射線治療等)に関する医学的知識や放射線治療に関する放射線物理学や放射線計測学等の物理的知識を専門の先生方に詳しく教えて頂きました。特に、臨床現場で普段関わりの少ない手術や化学療法に関しては、臓器別に実際にどのような手技で行われているのか、どのような薬物が用いられているのかを知ることができ、非常に勉強になりました。また、放射線治療の講義では、臨床現場で深く知る機会が少ない内容も含めて体系的に網羅しながら学ぶことができました。

私は現在も放射線治療に従事しており、主に患者への照射や放射線治療装置の品質管理をメインに業務を行っています。特に放射線治療装置の品質管理は、放射線治療を安全に行うために非常に重要な項目です。各品質管理項目における許容値の設定や実施頻度などを決定する際にがんプロの講義で学んだことを生かすことができます。また、カンファレンス等で先生方が話をされている内容は、がんプロの講義で聞いたことがある内容で患者がどのような治療を行っているかを理解するのに役立っています。これからは、患者への照射や装置の品質管理だけでなく、治療計画支援にも積極的に関わっていき、患者により良い治療を提供できるように、医師、診療放射線技師、医学物理士、看護師等と協力し、チーム医療の実践を心掛けて日々、研鑽していきたいと思っております。

がん高度実践看護師(APN)養成コースを修了して

独立行政法人労働者健康安全機構 香川労災病院 岩田 尚子さん



がんプロ学生として過ごした2年間は、とても充実した時間でした。様々な研修会やセミナーに参加し、たくさんの情報や知識を獲得することができました。また他大学院生と交流することで、刺激を受けるとともに人脈も広がりました。

大学院修了後は、がん看護専門看護師として退院調整部門に所属しています。現部署では、患者・家族が過ごしたいと望む場所につなぐことを支援しています。そのため、院内外の多職種と対話する機会が多く、学生時代に得た知識と経験が非常に役に立っています。なかでもチーム医療合同演習において、多職種と話し合うことの重要性を学んでいたため、患者に関わる多職種の見解を聞きながら調整することを大切にしています。学生時代に、多職種での話し合いは患者の状態を多角的に理解できるということを学び、同時に各職種の強みを知ることができていたからこそ、現在はどんな些細なことでも多職種で情報共有するよう心掛けています。また多職種が一堂に会することで、各職種の専門性を活かした治療やケアを提案することができ、よりよい治療やケアの提供につながることを学んでいたからこそ、多職種カンファレンスを開催し、対話し合う場を設けています。

現在は積極的に多職種に働きかけていますが、進学前は他職種に話しかけることが苦手でした。しかし、がんプロで他職種について知る機会や多職種でディスカッションする機会を得たことで、他職種理解が促進され、苦手意識はなくなりました。多職種との協働の大切さを学んだことが、がんプロでの一番の収穫だと思います。

大学院での2年間の学びは、がん看護専門看護師としての私の基盤となりました。また、大学院は、悩んだ時に相談できるがん看護専門看護師の先輩や仲間という人脈を得た貴重な場でもあります。今後もがんプロで得た学びとつながりを大切に活動していきます。

平成28年度 第2回がん高度実践看護師WG講演会開催

がん患者の治療・療養・生活過程を支える高度な看護実践の展開 ～在宅がん医療と高度な看護実践～

日 時:平成28年12月17日(土)13:00～17:00

場 所:岡山コンベンションセンター 3階 コンベンションホール
参加者:262名

総 合 司 会:齋田 菜穂子(山口大学大学院)

講演会司会:藤田 佐和(高知県立大学大学院)、宮下 美香(広島大学大学院)

がん高度実践看護師WG講演会では、ケアとキュアの統合を根幹に5年間の全体テーマを「がん患者の治療・療養・生活過程を支える高度な看護実践の展開」とし、講演会を行ってきました。平成28年度は「在宅がん医療と高度な看護実践」をテーマに、第1回講演会では、2人の講師をお招きし、在宅がん医療についての基本的知識や在宅医の役割と活動の実際、在宅がん医療における看護師の役割や看護の実際についてご講演いただき、多くの方々にご参加いただきました。第2回講演会は、医療ソーシャルワーカーとがん看護専門看護師を講師としてお招きし、がん患者の在宅移行支援における社会資源や制度、在宅療養生活支援の実際についてご講演いただきました。

【講演者】

- ・日高 千陽 先生
岡山大学病院 総合患者支援センター 医療ソーシャルワーカー
「がん患者の在宅移行支援に活用できる社会資源や制度」
ー医療ソーシャルワーカーに学ぶー
- ・弘末 美佐 先生
特定医療法人久会 凶南病院 がん看護専門看護師
「医療機関でのがん患者の在宅移行支援の実際」ー臨床看護実践を通してー
- ・渡辺 友規 先生
社会福祉法人広島YMCA福祉会 YMCA訪問看護ステーション・ピース
がん看護専門看護師
「在宅で療養生活を送るがん患者の支援の実際」ー訪問看護実践を通してー

【終了報告】

第2回がん高度実践看護師WG講演会は、中国・四国全域から262名の方にご参加いただき、在宅がん医療における高度な看護実践への関心の高さを窺うことができました。講演内容は、医療ソーシャルワーカーとがん看護専門看護師による在宅移行や在宅療養に関する支援の実際であり、在宅療養支援に関わる医療職者にとって、実践的かつ具体的でわかりやすい内容でした。がん患者の療養生活を支えるために、社会制度や社会資源に関する知識を持ち、患者・家族の意向やQOLを重視した看護実践を行う必要性を改めて実感しました。また、患者・家族の意向に沿った円滑な在宅への移行を進めていくために、社会資源の知識を活用し、病院、在宅、両方の視点を持ち合わせながら看護支援を行うことが、看護師の役割として重要であることを再確認することができました。そして、がん患者・ご家族が希望する在宅療養を実現するための具体的な支援体制について理解す



総合司会:齋田先生の挨拶



主催者:藤田先生の挨拶



司会の藤田先生と宮下先生



受付の様子

ることができました。専門職として、在宅がん患者・家族の支援に積極的に取り組まれている3人のご講演を通して、その時、その一瞬を大切にしながら患者・家族と向き合う看護の大切さを学ぶことができました。

参加者からは、「がん患者の在宅医療・在宅看護が必須となってくる今後の社会の中において、病棟看護師としての役割を再認識することができた。実践に活用していきたい。」「病棟看護師として患者に対する重要な情報を他職種と共有すべきだということが理解できた。」「在宅移行を支えるためには、多職種の連携・情報共有、方向性のすり合わせが必要であると思った。」「本人・家族のその時々思い、意向をタイムリーに把握することが大切だと感じた。」「全てが自分の中で学びとなった。病院・在宅でのそれぞれの抱える葛藤・苦悩を知ることができて良かった。」など、多くの意見を頂きました。

【全体のサマリー】

日高 千陽 先生

医療ソーシャルワーカーである日高先生からは、大学病院のがん相談支援センターでのカウンセリングや病院の相談窓口の役割についてご説明いただき、がん患者・ご家族の入院から退院に至るまでの継続的な支援内容、医療ソーシャルワーカーの役割や活動の実際について理解することができました。医療ソーシャルワーカーとして、「クライアントを1人の生活者として捉える」ために、思いや課題を共有し、生活を総合的に捉え“その人らしく”生きられるよう支援していると強調されました。

公的制度や在宅療養を支える具体的な支援やサービスの内容についてご紹介いただき、看護職者が社会資源の知識を持ち、がん患者・家族に関わることの重要性を改めて確認することができました。がん患者の就労を含めた社会的問題について、新規の罹患者が増加している現状を踏まえ、さらに強化していく必要性について説明され、看護職者と協働して取り組む重要な課題として強調されました。

医療ソーシャルワーカーとして、経済的課題をもつ事例や在宅移行支援に関する調整事例を提示しながら、具体的な関わりを分かりやすく説明いただきました。がん患者・家族の個性を捉えて、生活史を理解し、必要なタイミングを見極め、情報提供や提案を行い、多職種と連携して支援をされている豊かな実践について伺うことができました。

弘末 美佐 先生

訪問看護師や緩和ケア病棟・急性期病棟の看護師としての経験を踏まえ、医療機関におけるがん患者の在宅移行支援の実際についてご説明いただきました。在宅移行支援を考えると、がん患者や家族にとって療養の場が変わることの意味を汲み取り、何を大切にしたいと思っているのか理解した上で目標設定を行い、意向のズレがない質の高い緩和ケアが提供できるよう、コーディネートする重要性について理解することができました。

在宅移行期は、積極的治療を断念する時期、今より状態が改善しない可能性が高い時期、そして、人生の幕引きが近い時期であり、ケアの目標や内容が変化し療養の場の選択が必要となるため、丁寧な支援を行う重要性について述べられました。また、退院に向けた支援が必要となるがん患者の特徴として、独居、高齢夫婦、継続する医療処置があるなど課題を抱えている場合も多く、多職種で協働し方向性を明確にしながらがん患者・家族とともに療養の場を考えていく必要性について再認識することができました。事例を用いた根拠に基づく実践を説明していただくことで、在宅移行支援に活用できるスキルや工夫について理解が深まり、今後の支援において還元できる貴重な学びとなりました。



日高 千陽 先生



弘末 美佐 先生

渡辺 友規 先生

訪問看護師の立場から在宅療養しているがん患者の背景と現状、支援の実際についてご説明いただきました。在宅療養しているがん患者の様相は、認知症や慢性疾患を抱えている、家族もがんで療養中である、がんサバイバーの就労・経済的問題など多様化しており、訪問看護師として個別の状況に対応しながら療養生活を支援していく必要があると述べられました。現在の在宅療養を取り巻く環境は、医療依存度の高い病態での在宅療養、経済的に困窮している、独居や介護者不在といった変化があり、訪問看護師が担う役割が複雑で多岐に渡ることを理解することができました。また、在宅で療養しているがん患者の支援の実際について、渡辺先生の経験を踏まえて具体的に紹介していただきました。訪問看護師として、病態を把握し、今後の変化を予測しながら、最期の療養の場の意思決定や家族の身体的・心理的負担の緩和に努め、がん患者・家族との関係性構築を大切にしながら看護をされていることが理解できました。講演の最後に多職種との協働の必要性について語られ、在宅移行時の情報提供や在宅移行後の連携の重要性など、明日からの看護実践に多くの示唆を得ることができました。



渡辺 友規 先生

【参加者アンケート結果】

参加者262名のうち173名(回答率66.0%、中国82.7%、四国13.3%、その他1.7%)から回答をいただきました。アンケートの結果、96.5%の参加者が、メインテーマ「がん患者の治療・療養・生活過程を支える高度な看護実践の展開～在宅がん医療と高度な看護実践～」について関心をもって参加されていました。51.5%の参加者が都道府県がん診療連携拠点病院および地域がん診療連携拠点病院に所属していました。89.4%の参加者が、メインテーマについて具体的に理解することができた、93.7%の参加者が満足したと回答されていました。これらの結果から、参加者の満足度の高い講演会であったと評価できます。さらに、多くの参加者が「がん看護の専門的な学習を深める動機づけになった(96.6%)」、「がんのキャリアアップを目指す動機づけになった(86.7%)」と回答しており、27.2%の参加者ががん看護専門看護師の資格を取りたいと思っていることから、キャリアアップへの動機づけにもなっていると考えます。

今回の講演会で役立つと思われた内容について、「社会資源や制度に関するもの」「医療ソーシャルワーカーに関するもの」「意思決定支援に関するもの」「CNSに関して」「在宅移行に関するもの」「在宅での療養生活支援に関するもの」「訪問看護に関するもの」「連携に関するもの」などの8項目が挙げられており、参加者が在宅がん看護実践を考える上で、有用な講演会であったと考えます。今後の講義内容に関する希望では、非がん患者の看護について、認知症のがん患者に対する看護・疼痛コントロールについて、精神症状のある患者へのケア、家族看護についての意見をいただきました。また、意思決定支援の実際など実践に活用できる内容や、明日からの看護実践に示唆が得られる内容に期待が大きいことが窺えました。

最終年度の講演会を盛会に終えることができました。この5年間、「がん患者の治療・療養・生活過程を支える高度な看護実践の展開」の講演会に多くの専門職の皆様にご参加いただき、本当にありがとうございました。今後も中国・四国地方の看護の発展のため、様々な取り組みを進めてまいりたいと考えております。

文責：高知県立大学大学院看護学研究科 藤田 佐和



質疑応答の様子



会場の様子

活動報告

高知

みんなで支える在宅緩和ケア

日時:平成28年8月7日(日) 15:00~17:00
場所:ちより街テラス 3階 ちよテラホール
参加者:45名



(緩和療法医WG)

【みんなで支える在宅がん緩和ケア】

千葉県立保健医療大学 リハビリテーション学科
准教授 安部 能成

(がん高度実践看護師WG)

【地域がん診療連携拠点病院から在宅へ

～当院の在宅緩和地域連携について～】

香川県立中央病院 がん看護専門看護師 萱原 沙織

(在宅がん医療WG)

【みんなで支える在宅緩和医療

～ケアマネジャーとしての関わりと介護保険の活用～】

高知県介護支援専門員連絡協議会 会長 廣内 一樹

終了報告

「みんなで支える在宅緩和ケア」と題して、かかわりの深い在宅がん医療WG・緩和療法医WG・がん高度実践看護師WGの3WGが協働し、地域でがん医療に携わる医療スタッフを対象とした合同セミナーを開催しました。緩和療法医WGからは、千葉県立保健医療大学リハビリテーション学科准教授の安部能成氏、がん高度実践看護師WGからは、香川県立中央病院がん看護専門看護師の萱原沙織氏、在宅がん医療WGからは、高知県介護支援専門員連絡協議会会長の廣内一樹氏に、それぞれの職種の立場から講演いただきました。参加者からは、「様々な職種の先生方が在宅緩和ケアの現状と課題について、実情を踏まえて分かりやすく説明くださり勉強になりました。」「いろいろな視点からの発表をありがとうございました。」などの感想が聞かれました。

岡山

第12回 岡山大学がん放射線科学コース(インテンシブコース)セミナー

日時:平成28年8月9日(火) 19:00~20:30
場所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第4カンファレンスルーム
参加者:4名

座長:岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

【放射線治療品質管理基礎技術12(線量分布修飾の実際)】

岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画している。今回のセミナーでは第12回目としてChapter12を中心に、患者データの取得、治療シミュレーション、治療照合、輪郭不整形の補正、組織欠損の補正、患者位置決めなどについて解説がなされました。大学院生が参加者の大部分を占めたが、全員熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

徳島

Cancer Meeting in Tokushima 2016 [International Symposium]

日時:平成28年8月13日(土) 14:30~16:00
場所:ホテルクレメント徳島
参加者:33名

開会挨拶:徳島大学大学院医歯薬学研究部 消化器内科学 教授 高山 哲治 先生

1. [Colorectal Cancer Genetics in the Era of Next Generation Sequencing]

Manish Gala, Massachusetts General Hospital and Harvard Medical School
司会:札幌東徳洲会病院付属臨床研究センター がん研究部 水上 裕輔 先生

2. [Epigenetic Changes in Gastrointestinal Cancers: Induction Mechanisms and Clinical Applications]

Toshikazu Ushijima, Division of Epigenomics, National Cancer Center Research Institute
司会:徳島大学大学院医歯薬学研究部 消化器内科学 教授 高山 哲治 先生

閉会挨拶:徳島大学大学院医歯薬学研究部 胸部・内分泌・腫瘍外科学 教授 丹黒 章 先生

終了報告

今回のInternational Symposiumでは、2名の講師の先生にご講演いただいた。初めに、アメリカのHarvard Medical SchoolのGala先生に大腸がんの遺伝子異常に関する最新の知見を英語でご講演いただいた。特に、次世代シーケンサーによる解析が可能となつてからの遺伝子解析研究の趨勢、個別化医療への応用について説明された。また、遺伝性大腸がんの新しい遺伝子異常についてもわかりやすくお話いただいた。次に、国立がん研究センターの牛島俊和先生に消化器がんのエピジェネティクスについてご講演いただいた。特に、胃がんの発生とメチル化、ヘリコバクター・ピロリ除菌時代のメチル化について、最新のデータを英語で紹介してくれた。質疑応答では、家族性腫瘍の遺伝子異常について質問があった。また、胃がんの発生においてエピジェネティクスと遺伝子異常がどのように関与するのか、ヘリコバクター・ピロリ除菌後に遺伝子異常が発がんに果たす役割についても多数質問が挙がった。

川崎

インテンシブ生涯教育コース

川崎医科大学附属病院がんセンター 第19回Cancer Seminar合同講演会

テーマ:がん分子標的薬の現状と課題

日時:平成28年8月20日(土) 13:30~16:00
場所:川崎医科大学校舎棟 7階 M-702教室
参加者:67名

司会:川崎医科大学 呼吸器内科学 教授 岡 三喜男 先生

講演1:【総論】 川崎医科大学 呼吸器内科学 教授 岡 三喜男 先生
講演2:【肺がん】 川崎医科大学 呼吸器内科学 臨床助教 阿部 公亮 先生
講演3:【乳がん】 川崎医科大学 乳腺甲状腺外科学 講師 山下 哲正 先生
講演4:【大腸がん】 川崎医科大学 消化器外科学 講師 鶴田 淳 先生
講演5:【腎臓がん】 川崎医科大学 泌尿器科学 准教授 宮地 禎幸 先生

終了報告

今回はテーマを「がん分子標的薬の現状と課題」とし、「肺がん」、「乳がん」、「大腸がん」、「腎臓がん」について、様々な症例をもとに分子標的薬の適応、副作用、費用についての一般的知識などが紹介された。どの講演も来場者にわかりやすく、最新の情報を提供するもので、それぞれにおいて活発な質疑応答が行われたことから、来場者にとって興味深い内容だったと思われ、意義深いものだったと考える。参加者からは「症例を具体的に示されていてよく分かり役に立った。」「それぞれのがんについての分子標的薬の現状等について大変勉強になった。」「乳がんの患者と関わる上で、費用対効果について非常に参考になった。」等の意見が多くあり、有意義なものだったと考える。

岡山 第13回 岡山大学がん放射線科学コース(インテンシブコース)セミナー

日 時:平成28年8月23日(火) 19:00~20:30
場 所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第4カンファレンスルーム
参加者:5名

座長:岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「放射線治療品質管理基礎技術13(照射法最適化の実際)」
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画している。今回のセミナーでは第13回目としてChapter13を中心に、照射野プロック、照射野成型、皮膚線量、照射野のつなぎなどについて解説がなされました。大学院生が参加者の大部分を占めたが、全員熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

山口 第3回 がん治療スキルアップコース(インテンシブ)セミナー

第7回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会

日 時:平成28年8月25日(木) 17:30~19:00
場 所:山口大学医学部附属病院 新中央診療棟1階 多目的室1
参加者:39名

開会挨拶:山口大学医学部附属病院 腫瘍センター
准教授 吉野 茂文 先生

司会:山口大学医学部附属病院 緩和ケアセンター
末重 千里 看護師長

緩和ケアミニレクチャー

「望んだ場所で療養するために医療者のできること」
山口大学医学部附属病院 緩和ケアセンター
宮内 貴子 副看護師長

事例検討

「大学病院から在宅での看取りを迎えた40歳代の膵臓がん症例」
山口大学医学部附属病院 緩和ケアセンター 松元 満智子 先生
すえなが内科在宅診療所 末永 和之 先生
訪問看護おかふじ 岡藤 美智子 先生

終了報告

この度、第7回宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会を開催した。切れ目のない緩和ケアを実現するために、事例検討を通じて顔の見える緩和ケア連携体制の構築及び連携強化を図ることを目的とし、附属病院の職員以外にも、院外の医師、看護師、訪問看護師、MSWなど様々な職種の方々が参加された。当院の吉野茂文腫瘍センター副センター長より開会の挨拶があり、末重千里看護師長を司会として、宮内貴子副看護師長の「緩和ケアミニレクチャー」から始まり、各施設より事例提示があった後、グループ形式で討議を行った。参加者からは、「今回の症例から、色々な施設の多職種の方と連携することが重要であると理解でき、それぞれの立場の方の熱い思いが伝わってきました。参加できて良かったです。」「在宅の方の話を聞いて勉強になりました。」「たくさんのヒントをいただけて明日からの看護に役立ちそうです。」などの意見が寄せられ、有意義な検討会となった。



高知 第7回 インテンシブコース(在宅がん医療・緩和医療)集中セミナー

テーマ:在宅がん医療をささえるために

日 時:平成28年8月28日(日) 13:00~16:30
場 所:高知会館 2階 白鳳の間
参加者:22名

総合司会:高知大学医学部附属病院 がん治療センター
センター長 小林 道也

総合コーディネーター:
高知大学医学部医療学(公衆衛生学)
講師 宮野 伊知郎

- 開会挨拶
- ワークショップ説明・アイスブレイク
- 多職種によるワークショップ(ワールド・カフェ方式)
- まとめ
- 閉会挨拶・アンケート回収

終了報告

本セミナーは、地域でがん医療に関わる医療スタッフを対象に開催しました。少人数のグループでテーマごとに席替えを行い対話するワールド・カフェ方式は、毎回好評であり、今回も参加者からは、「初対面の方とも話しやすい雰囲気良かったです。」「改めて多職種の方々と意見交換する場の大切さを感じました。」「知らないこともまだまだあったので知識を増やすことができました。」などの感想が聞かれました。



山口 第4回 がん治療スキルアップコース(インテンシブ)セミナー

テーマ:がん治療のオーラルケア

日 時:平成28年9月2日(金) 18:00~19:00
場 所:山口大学医学部霜仁会館 3階 多目的室
参加者:22名

司会:山口大学医学部附属病院 腫瘍センター
准教授 吉野 茂文 先生

「根拠に基づく口腔機能管理を目指して」
山口大学大学院医学系研究科 歯科口腔外科学講座
助教 原田 耕志 先生

終了報告

この度、山口大学大学院医学系研究科歯科口腔外科学講座の原田耕志先生によるがん治療のオーラルケアをテーマとしたセミナーを開催した。演題は「根拠に基づく口腔機能管理を目指して」とし、がん治療における口腔ケアの目的から本院における口腔ケアの現状、口腔ケアの有用性などについて話された。その中でも、がん患者における顎骨壊死については、症例を挙げながら、その要因や問題点、今後の治療法などについて詳しく述べられた。講演後は活発な質疑応答もあり、大変盛会であった。



川崎

インテンシブ生涯教育コース

川崎医科大学附属病院がんセンター 第13回Oncology Seminar合同講演会
テーマ:在宅医療連携～お家に帰ろう～

日時:平成28年9月3日(土) 13:30～15:50
場所:川崎医科大学校舎棟 7階 M-702教室
参加者:55名

司会:川崎医科大学附属病院 中村 直未 看護副師長

講演1:「在宅緩和ケアパスの活用について」
川崎医科大学附属病院 緩和ケアセンター
出口 美穂 看護師長
大石 昌美 看護主任

講演2:「在宅医療の実際」
あさのクリニック 院長 浅野 直 先生

終了報告

今回はテーマを「在宅医療連携～お家に帰ろう～」とし、「在宅緩和ケアパスの活用について」、「在宅医療の実際」と題して、緩和ケアセンターの機能強化についてチーム医療提供体制、専門的な緩和ケア・がん看護の提供、専門相談支援、医療従事者の研修会運営の4つの活動を掲げた。また、緩和ケアパスの目的や地域連携について活用事例を示し、さらに通院困難、退院後の療養、終末期患者への緩和ケアとして、訪問診療での在宅医療のサポートを紹介した。

どの講演も来場者にわかりやすく、最新の情報を提供するもので、それぞれにおいて活発な質疑応答が行われたことから、来場者にとって興味深い内容だったと思われ、意義深いものだったと考える。

参加者からは「実際の例を用い、患者さんのために精一杯医療をされていて良い刺激となった。」「在宅医療の難しさ、大切さ、進め方がよく分かった。」「医師とコミュニケーションをとりながら、患者や家族が生活していく上でよりよい選択をしていけるようサポートしていきたい。」等の意見が多くあり、とても有意義なものであったと考える。



岡山

第14回 岡山大学がん放射線科学コース(インテンシブコース)セミナー

日時:平成28年9月13日(火) 19:00～20:30
場所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第4カンファレンスルーム
参加者:5名

座長:岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「放射線治療品質管理基礎技術14(高エネルギー電子線の特性と管理)」
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画している。今回のセミナーでは第14回目としてChapter14前半を中心に、電子線照射における物理特性、吸収線量の決定、線量分布特性、治療計画技術などについて解説がなされました。大学院生が参加者の大部分を占めたが、全員熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

徳島

大学院臨床腫瘍学教育課程セミナー

日時:平成28年9月14日(水) 17:00～18:00
場所:徳島大学医学部 呼吸器・膠原病内科学分野
カンファレンス室(医学臨床B棟8階)

参加者:24名

「肺がんに対する免疫チェックポイント阻害薬開発の現状と展望」
国立がん研究センター中央病院
呼吸器内科医長 軒原 浩 先生



終了報告

今回のセミナーでは、国立がん研究センター中央病院呼吸器内科医長の軒原浩先生にご講演いただいた。講演内容は、最近臨床開発が急速に進んでいる免疫チェックポイント阻害薬の現状と今後の展開についてであった。免疫チェックポイント分子の作用メカニズムに関する基礎的内容とCTLA-4やPD-1/PD-L1分子に対する抗体医薬の臨床効果と併用療法に関する臨床的内容が含まれた講演であった。質疑応答では、バイオマーカーや実地臨床での薬剤選択に関する質問があった。

講演内容は大変わかりやすく、最近の動向を踏まえたup-to-dateな内容であった。香川県からの参加者や多職種参加者があり、最近のトピックスである免疫チェックポイント阻害薬に対する高い関心が窺われた。

山口

第5回 がん治療スキルアップコース(インテンシブ)セミナー

テーマ:EBM研究

日時:平成28年9月14日(水) 18:00～19:00
場所:山口大学医学部霜仁会館 3階 多目的室
参加者:14名

司会:山口大学医学部附属病院 腫瘍センター
准教授 吉野 茂文 先生

「医薬品使用時の安全管理」
山口大学大学院医学系研究科 臨床薬理学講座
教授 古川 裕之 先生



終了報告

講演では、さまざまな医療事故や医薬品関係の犯罪の事例を取り上げ、報道されているエラーや犯罪は氷山の一角であり、ひとつの事例から学ぶことが大事であると述べられた。また、エラーの中でも致命的なエラーを起こさないためには、危険に対する評価力をつけることであるとし、エラーが起きた根本的原因を見つける力・分析する力を養うことが重要であるとした。また、患者さんを観察することも重要であるとし、一番最初に異常に気付くのは他ならぬ患者さん自身であり、患者さんの傍に行き、現在の状態を観察することが大事であると述べられた。他にも、既承認薬の適応外使用や診療情報の管理などについて、事例を挙げながら説明があった。

岡山 第3回 岡山大学がん放射線科学コースインテンシブコース地域連携セミナー

日時:平成28年9月21日(水) 18:30~20:00
場所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第4カンファレンスルーム
参加者:7名

座長:岡山大学病院医療技術部 放射線部門 大野 誠一郎

「頸部領域のMR検査」

大阪医科大学附属病院 中央放射線部 山村 憲一郎 先生



終了報告

本セミナーでは、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、頸部領域のMR検査と題し、大阪医科大学附属病院の山村憲一郎先生より講義して頂きました。セミナー講義では、頸部(咽頭・副鼻腔領域)の画像解剖およびMR基本撮像プロトコル、症例報告を中心に、技術的な視点から臨床応用事例を講義して頂き、それらの有用性とともに将来展望についても解説がなされました。さらにディスカッションを通じて、臨床における様々な経験に基づく実践的な内容や臨床的課題について説明して頂きました。参加者からは、「このようなセミナーを通じて、放射線診断技術や医学物理の実践について学ぶことができることは有意義だと思います。」などの感想が聞かれました。

岡山 第15回 岡山大学がん放射線科学コース(インテンシブコース)セミナー

日時:平成28年9月27日(火) 19:00~20:30
場所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第4カンファレンスルーム
参加者:5名

座長:岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「放射線治療品質管理基礎技術15(高エネルギー電子線治療計画と管理)」

岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画している。今回のセミナーでは第15回目としてChapter14後半を中心に、電子線照射における治療計画技術、照射野成型、特殊照射技術などについて解説がなされました。大学院生および社会人全員が熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

岡山 第4回 岡山大学がん放射線科学コースインテンシブコース地域連携セミナー

日時:平成28年9月30日(金) 18:30~20:00
場所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第4カンファレンスルーム
参加者:14名

座長:岡山大学病院医療技術部 放射線部門 大野 誠一郎

「腹部・骨盤領域MRIの基礎知識」

大阪赤十字病院 放射線診断科部 高津 安男 先生



終了報告

本セミナーでは、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に腹部・骨盤領域のMRIの基礎知識と題し、大阪赤十字病院の高津安男先生より講義して頂きました。セミナー講義では、腹部・骨盤領域の画像解剖およびMR基本撮像プロトコル、症例報告を中心に、技術的な視点から臨床応用事例を講義して頂き、それらの有用性とともに将来展望についても解説がなされました。さらにディスカッションを通じて、臨床現場における苦労話や技術的な工夫(体動抑制、追加撮影の判断)ならびに現状の臨床課題について説明して頂きました。大学院相当の内容にもかかわらず、専門資格の取得に向けて大学院生、社会人が熱心に話を聞く姿勢が見られました。

山口 看護師といっしょに考える 第6回 がん市民公開講座

テーマ:気になる「肝がん」のお話

日時:平成28年10月1日(土) 14:00~16:00
場所:宇部市シルバーふれあいセンター
参加者:約150名

特別講演1「よくわかる肝がんの早期発見から内科的治療まで」
山口大学医学部附属病院 第一内科 佐伯 一成 先生

特別講演2「よくわかる肝がんの外科的治療」
山口大学医学部附属病院 第二外科 坂本 和彦 先生

「肝がんの化学療法について看護師の立場から」
山口大学医学部附属病院 がん化学療法看護認定看護師 沖村 美香

「B型肝炎の予防接種について」
宇部市健康推進課 課長 床本 晋二

「診断時から始まる緩和ケア」
山口大学医学部附属病院 看護師長 末重 千里

終了報告

この度、「気になる「肝がん」のお話」をテーマに市民公開講座を開催し、市民約150名が参加した。



愛媛

第1回 愛媛大学がんプロフェッショナル養成インテンシブコース講習会

第50回ヘルスアカデミー

テーマ:がん免疫療法の最前線 ~変わるがん治療について知っておきたいこと~

日時:平成28年10月2日(日) 14:00~16:45

場所:いよてつ高島屋 9階 ローズホール

参加者:236名

総合司会:NPO法人愛媛がんサポート おれんじの会 松本 陽子 氏

開会挨拶:愛媛大学大学院医学系研究科
血液・免疫・感染症内科学 教授 安川 正貴 氏

講演1

「免疫とは何か?」

愛媛大学大学院医学系研究科
免疫学 教授 山下 政克 氏

講演2

「がん免疫療法の種類と特徴」

愛媛大学大学院医学系研究科
血液・免疫・感染症内科学 教授 安川 正貴 氏

講演3

「新規がん免疫療法の現状と課題」

国立がん研究センター中央病院 先端医療開発センター
新薬臨床開発分野 医員 北野 滋久 氏

講演4

「肺がんに対する最新治療」

四国がんセンター 第二病棟 部長
呼吸器内科 医長 野上 尚之 氏

■質疑応答

コーディネーター:松本 陽子 氏、薬師神 芳洋 氏

パネリスト:山下 政克 氏、安川 正貴 氏、北野 滋久 氏、野上 尚之 氏

開会挨拶:愛媛大学大学院医学系研究科 臨床腫瘍学 教授 薬師神 芳洋 氏

終了報告

本インテンシブコース(ヘルスアカデミー市民公開講座と共同開催)では、免疫チェックポイント阻害剤に焦点を当て、4人の演者に異なる視点からこの新しい治療法を解説して頂きました。200人を越える医療従事者と一般市民が参加され、講演の最後に行われた質疑応答では20を越える質問が寄せられるなど、この分野に対する関心の高さが感じられる講演会でした。



愛媛

第2回 愛媛大学がんプロフェッショナル養成インテンシブコース講習会

第36回 愛媛大学医学部附属病院腫瘍センター講演会

日時:平成28年10月3日(月) 16:30~18:00

場所:愛媛大学医学部40周年記念講堂

参加者:87名

司会:愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻
基盤・実践看護学講座 教授 乗松 貞子座長:愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻
地域健康システム看護学講座 准教授 田中 久美子

「治療が難しくなった患者さん・家族への支援」

めぐみ在宅クリニック 院長 小澤 竹俊 先生

終了報告

めぐみ在宅クリニック院長の小澤竹俊先生をお迎えして「治療が難しくなった患者さん・家族への支援」と題して講演会を開催しました。講演では、対象者の苦しみに気づくこと、その苦しみに寄り添うことが重要であることが説明されました。また、苦しみに寄り添うためには「対象者が援助者のことを理解者だと思える」ことができるように援助的コミュニケーションを学び、実践できることが重要であると強調して話されました。さらに、生きる支えとなる「人を支える3本の柱」についても説明され、「スピリチュアルな痛み」の中で生きる対象者を支えることの重要性が話されました。

参加者からは、「講義は理解しやすく、講演中に話された内容や映像を見て感動した」「今まで対象者が解決できない苦しみを訴えてきた時何もできなかったが、本日の講演を聞いて、聴くことが重要であることが理解できた」等の感想があり、高評価でした。



山口

第6回 がん治療スキルアップコース(インテンシブ)セミナー

テーマ:がんサバイバー

日時:平成28年10月7日(金) 18:00~19:00

場所:山口大学医学部附属病院 新中央診療棟 1階 多目的室1

参加者:27名

司会:山口大学医学部附属病院 看護部 原田 美佐 副看護部長

「がんの患者さんと共に16年

~がん経験者として感じたこと、思うこと~」

周南いのちを考える会 代表 前川 育 先生

終了報告

この度、NPO法人周南いのちを考える会の前川育先生をお招きし、「がんの患者さんと共に16年~がん経験者として感じたこと、思うこと~」と題してセミナーを開催した。小児がんでお子様を亡くされたことや自身の3度のがん経験、ボランティア活動を通して関わったがん患者さんのことなど多くの体験談を交えながら、患者さんとの関わり方や緩和のころについて医療者に伝えたいことを述べられた。最後に、「医療関係者やがん経験者などが、患者さんとそのご家族に共感と寄り添う気持ちをもって関わることができるように心から願っている。」と述べられ、セミナーを締めくくられた。参加した医療者からは、「貴重なお話を聞くことができて良かった。看護師はどうあるべきか、医療者はどうあるべきか考えていきたい。」との感想が寄せられた。



岡山 第16回 岡山大学がん放射線科学コース(インテンシブコース)セミナー

日 時:平成28年10月11日(火) 19:00~20:30
場 所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第5カンファレンスルーム
参加者:5名

座長:岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「放射線治療品質管理基礎技術16(組織内照射の実際と管理)」
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画している。今回のセミナーでは第16回目としてChapter15を中心に、小線源の物理特性、線源校正、線量分布計算、組織内照射の線量体系、刺入技術などについて解説がなされました。大学院生および社会人全員が熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

徳島 PHITS講習会

日 時:平成28年10月22日(土) 10:30~17:30
平成28年10月23日(日) 9:00~16:30
場 所:徳島大学蔵本キャンパス 医学部基礎B棟1階 基礎第一講義室
参加者:18名

講師:岩元 洋介 先生(日本原子力研究開発機構)
特別講師:古場 裕介 先生(量子科学技術研究開発機構)

講習会プログラム

- 10月22日(土)
- PHITSのインストール
 - PHITSの概要説明
 - 基礎実習1-1(体系の作成方法)
 - 基礎実習1-2(線源の設定方法)
 - 基礎実習2(タリーの設定方法)

10月23日(日)

- 基礎実習3-1(輸送計算に関する設定)
- 基礎実習3-2(物理モデルの設定)
- 総合実習(α線、β線、γ線、中性子線を止めるには?)
- 総合実習(陽子ビームで雪だるまを溶かそう!)
- 医療応用実習(DICOM2PHITSの使い方)
- まとめと質疑応答

終了報告

本学で3回目となるモンテカルロシミュレーションの講義と実習を行った。今回は第1回目と同様の内容ではあるが、ソフトウェアが改善され、よりモンテカルロシミュレーションを扱い易くなった。本セミナーは複雑化する放射線と物質との相互作用を学ぶ良い機会となり、大変有意義であった。参加者からも、「理解しにくい物理現象をシミュレーションを行うことによって、放射線に対する理解が深まった。今後も徳島大学で引き続き行っていただきたい」と感想が聞かれた。



岡山 第17回 岡山大学がん放射線科学コース(インテンシブコース)セミナー

日 時:平成28年10月25日(火) 19:00~20:30
場 所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第4カンファレンスルーム
参加者:5名

座長:岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「放射線治療品質管理基礎技術17(放射線防護の実際と管理)」
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画している。今回のセミナーでは第17回目としてChapter16を中心に、放射線防護で用いられる単位系、自然放射線、低レベル放射線の影響、線量限度、遮蔽計算、規制などについて解説がなされました。大学院生および社会人全員が熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

岡山 第5回 岡山大学がん放射線科学コースインテンシブコース 地域連携セミナー(大学院公開講座)

日 時:平成28年11月5日(土) 10:00~12:00
場 所:岡山大学大学院保健学研究科 保健学科棟2F 205室
参加者:11名

司会:岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

「放射線治療計測技術学1」
広島大学病院放射線治療科 齋藤 明登 先生

「放射線治療計測技術学2」
山口大学大学院医学系研究科 椎木 健裕 先生

終了報告

今回のセミナーでは、放射線計測に関する基礎から実際の臨床応用事例まで幅広く講義して頂きました。さらにディスカッションを通じて、自施設での臨床における経験や実践内容ならびに研究課題について説明して頂きました。このようなセミナーを通じて、放射線治療技術や医学物理の実践について学ぶことができることは有意義だと思います。



岡山

第1回 岡山大学がん放射線科学コースFDセミナー 岡山大学医学物理士インテンシブコース

日 時:平成28年11月5日(土) 13:30~16:30
場 所:岡山大学大学院保健学研究科 保健学科棟2F 205室
参加者:19名

司会:笈田 将皇(岡山大学大学院)、青山 英樹(岡山大学病院)

シンポジウム①「がんプロ活動期間(2007年~2016年)の中四国地区放射線治療施設の変化」

1. 中四国地区各県の変化について
演者:長瀬 尚巳(川崎医科大学附属病院)、近藤 和人(倉敷中央病院)、田辺 悦章(山口大学医学部附属病院)、小野 康之(鳥取大学医学部附属病院)、西村 友則(島根大学医学部附属病院)、佐々木 幹治(徳島大学病院)、本田 弘文(愛媛大学医学部附属病院)、古志 和信(独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター)、續木 将人(香川大学医学部附属病院)、佐々木 俊一(高知大学医学部附属病院)
2. 総合討論

シンポジウム②「放射線治療に関わる医療技術者の役割と課題」

1. 臨床実務を通じて見える医学物理教育・実践の本質的課題
演者:佐々木 幹治(徳島大学病院)、青山 英樹(岡山大学病院)
2. 教育現場を通じて見える医学物理教育・実践の本質的課題
演者:笈田 将皇(岡山大学大学院)、齋藤 明登(広島大学病院)
3. グループワーク・総合討論

終了報告

本セミナーでは、中国・四国地区の大学病院および四国がんセンター、倉敷中央病院、県内外の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、がんプロ活動の総括と地域連携に向けての討論会および講演会を企画しました。シンポジウム①では、がんプロ活動を開始した2007年から現在までの各地域の放射線治療の変化を報告して頂き、地域間、大学間での今後の放射線治療体制整備および人材育成の解決に向けて積極的に議論を交わしました。またシンポジウム②では、「放射線治療に関わる医療技術者の役割と課題」と題して、高度な放射線治療に求められる臨床スキルや知識を現場でどのように身につけ、対応させるべきか職場の業務環境、臨床研究への理解、人材育成システムなど多角的に議論を交わしました。短い時間でしたが、非常に有意義な議論が展開され、盛況裡に終わりました。

岡山

第18回 岡山大学がん放射線科学コース(インテンシブコース)セミナー

日 時:平成28年11月8日(火) 19:00~20:30
場 所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第5カンファレンスルーム
参加者:5名

座長:岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「放射線治療品質管理基礎技術18(品質管理の実際)」 岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画している。今回のセミナーでは第18回目としてChapter17を中心に、放射線治療における品質管理の重要性について、適正配置、教育、管理業務(線量管理、機器管理、受入試験)などについて解説がなされました。大学院生および社会人全員が熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

徳島

Seminar on Chemotherapy for GI Cancer

日 時:平成28年11月8日(火) 19:00~20:30
場 所:徳島大学大学院医歯薬学研究部 消化器内科学 医局
参加者:22名

司会:徳島大学大学院医歯薬学研究部 消化器内科学
教授 高山 哲治 先生

「胃がんに対する化学療法」の進歩
札幌医科大学医学部 腫瘍内科学講座
講師 佐藤 康史 先生



終了報告

講演内容は、1)切除不能進行胃がんに対する化学療法の標準治療、2)最近の新しい化学療法の成績、3)先日のヨーロッパ臨床腫瘍学会(ESMO)の発表内容について、4)胃がん治療のバイオマーカー研究について、であった。
講演内容は大変わかりやすく、レベルの高い発表であった。3名より質問があり、質問に対する回答および討論も大変有意義であった。聴講者からも大変良かったとの評価をいただいた。

山口

第7回 がん治療スキルアップコース(インテンシブ)セミナー

第9回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会

日 時:平成28年11月10日(木) 17:30~19:00
場 所:山口大学医学部附属病院 第2病棟6階カンファレンス室
参加者:27名

司会:山口大学医学部附属病院 診療連携室 結城 美重 看護師長

ミニレクチャー
「緩和ケア病棟ってどんなところ？」
山口大学医学部附属病院 緩和ケアセンター
宮内 貴子 副看護師長

事例検討
「長期にわたるがん治療を中止し、緩和ケア病棟へ転院した前立腺がん症例」
山口大学医学部附属病院 泌尿器科 井上 亮 先生
山口宇部医療センター 緩和ケア科 小野田 秀子 先生

終了報告

この度、第9回宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会を開催した。切れ目のない緩和ケアを実現するために、事例検討を通じて顔の見える緩和ケア連携体制の構築及び連携強化を図ることを目的とし、附属病院の職員の他にも、院外の医師、理学療法士、看護師、訪問看護師と様々な職種から27名の参加があった。
まず、当院の吉野茂文腫瘍センター副センター長より開会の挨拶があり、当院の結城美重看護師長を司会として、宮内貴子副看護師長の「緩和ケアミニレクチャー」を行った。次に、各施設より事例提示があった後、グループ形式で討議を行った。
参加者からは、「患者さんの今までの経過を改めて振り返ることが出来て良かった」、「転院先の患者さんの情報を聞くことが出来て良かった」などの意見が寄せられ、有意義な検討会となった。



山口 第8回 がん治療スキルアップコース(インテンシブ)セミナー

テーマ:精神腫瘍

日時:平成28年11月16日(水) 18:00~19:00
場所:山口大学医学部霜仁会館 3階 多目的室
参加者:37名

司会:山口大学医学部附属病院 腫瘍センター
准教授 吉野 茂文 先生

「がん患者とのコミュニケーションスキル」
山口大学 大学教育機構 保健管理センター
准教授 松原 敏郎 先生



終了報告

この度、今年度8回目となるがん治療スキルアップコースセミナーを開催し、山口大学大学教育機構保健管理センターの松原敏郎先生にがん患者とのコミュニケーションについてご講演いただいた。講演には、医師や看護師、保健師など多種職から37名の参加があった。

まず、先生は「医師も看護師も一番の土台はコミュニケーションスキルだと思う。患者さんの背景をある程度理解してコミュニケーションをとると、より患者さんの苦痛に寄り添えると思っている。今はどの科でもがん患者さんと関わる場面があり、今回のセミナーをそのコミュニケーションの一助としていただければと思う。」と述べられ、セミナーを始められた。

セミナーでは、がん患者やその家族とのコミュニケーションに必要なものや、話を聴く基本的なスキルなどについて、具体的な例を交えながら分かりやすく丁寧に述べられた。

講演の最後には活発な質疑応答もあり、大変盛会であった。

岡山 第19回 岡山大学がん放射線科学コース(インテンシブコース)セミナー

日時:平成28年11月22日(火) 19:00~20:30
場所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第4カンファレンスルーム
参加者:4名

座長:岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「放射線治療品質管理基礎技術19(特殊照射の実際と品質)」
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画している。今回のセミナーでは第19回目としてChapter18、19を中心に、全身照射の照射技術、3次元治療計画技術、治療計画の線量計算アルゴリズムなどについて解説がなされました。大学院生および社会人全員が熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

岡山 第20回 岡山大学がん放射線科学コース(インテンシブコース)セミナー

日時:平成28年12月6日(火) 19:00~20:30
場所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第4カンファレンスルーム
参加者:4名

座長:岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「放射線治療品質管理基礎技術20(高精度照射技術の実際と管理)」
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画している。今回のセミナーでは第20回目としてChapter20、21を中心に、IMRT計画、照射技術、定位照射技術、線量計算アルゴリズム、品質管理手法などについて解説がなされました。大学院生および社会人全員が熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

岡山 第8回 歯科・口腔外科インテンシブコース

日時:平成28年12月11日(日) 9:00~15:00
場所:アークホテル岡山3階 牡丹
参加者:101名

座長:佐々木 朗 先生 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 口腔顎顔面外科学分野
宮本 洋二 先生 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 口腔外科学分野
三宅 実 先生 香川大学歯科口腔外科

特別講演「インプラントを用いた顎骨再建治療のA to Z」
高橋 哲 先生 東北大学大学院歯学研究科 口腔病態外科学講座 顎顔面・口腔外科学分野
教育講演「がん陽子線治療の概要」
脇 隆博 先生 津山中央病院 放射線科

シンポジウム

『がん患者の周術期口腔機能管理に対する病院歯科の取り組み』—今後の方向性についての検討—
「はじめに」

古木 良彦 先生 香川県立中央病院 歯科口腔外科

「我々が周術期口腔ケアを始めた理由:「花より団子」〜ストラテジーとしての周術期口腔ケア〜」

大西 徹郎 先生 市立池田病院 歯科口腔外科

「当院における周術期口腔機能管理の現状ならびに今後の問題点について」

角南 次郎 先生 国立病院機構岡山医療センター 歯科

「当院の化学療法における周術期口腔機能管理の現状について」

荒本 孝良 先生 愛媛県立中央病院 歯科

「当院の周術期口腔機能管理の現状について(化学放射線療法を中心に)」

柴田 茜 先生 香川県立中央病院 歯科口腔外科

「当院における周術期管理の取り組みと術後の嚥下障害への対応」

後藤 拓朗 先生 三豊総合病院 歯科保健センター

終了報告

特別講演では、顎切除後の硬性再建からインプラント治療を中心とした咀嚼機能回復方法の過程をわかりやすく解説いただき、口腔外科医からはたいへんご好評をいただきました。教育講演では、がん陽子線治療の概要について、実践的にわかりやすく解説をいただき、歯科医師、歯科衛生士にとってたいへん為になる内容でした。また、口腔がんに対する陽子線の適応について多くの質問がありました。シンポジウムでは、がん患者の周術期口腔機能管理に対する病院歯科の取り組みと今後の方向性について、病院歯科の先生にご講演いただき、多くの課題がみつかりました。そして、多くの参加者から勉強になったとご好評をいただきました。

岡山 第21回 岡山大学がん放射線科学コース(インテンシブコース)セミナー

日 時:平成28年12月20日(火) 19:00~20:30
場 所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第4カンファレンスルーム
参加者:4名

座長:岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「放射線治療品質管理基礎技術21(HDR、LDR治療技術の実際と管理)」
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画している。今回のセミナーでは第21回目としてChapter22、23を中心に、HDR、LDR治療計画技術、照射技術、線量計算アルゴリズム、品質管理手法などについて解説がなされました。大学院生および社会人全員が熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

香川 第16回 都道府県がん診療連携拠点病院研修セミナー

がん診療連携拠点病院における臨床試験の役割に関する研修会

日 時:平成29年1月10日(火) 17:30~18:30
場 所:香川大学医学部臨床講義棟2階
参加者:31名

座長:香川大学医学部附属病院 腫瘍センター長 辻 晃仁

「臨床試験とCRCの役割
— 医師と患者をつなぐ臨床試験コーディネーター —」
神戸市立医療センター 中央市民病院
治験・臨床試験管理センター 玉木 理衣 先生

終了報告

講演は、施設での具体例を示し、ポイントを押さえた分かりやすい内容であった。参加者からは、「CRCとして取り組みの工夫や役割についてとても参考になった。他職種の方からも話が聞きたい」との声があった。今後は他職種分野の話も展開していきたい。



岡山 第22回 岡山大学がん放射線科学コース(インテンシブコース)セミナー

日 時:平成29年1月10日(火) 19:00~20:30
場 所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第5カンファレンスルーム
参加者:4名

座長:岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「放射線治療品質管理基礎技術22(IGBT治療技術の実際と管理)」
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画している。今回のセミナーでは第22回目としてChapter24、25を中心に、血管小線源治療技術、IGBT、線量計算アルゴリズム、IGRT、品質管理手法などについて解説がなされました。大学院生および社会人全員が熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

徳島 第9回 徳島がん医療に携わる医師のためのコミュニケーション技術研修会

日 時:平成29年1月14日(土) 10:00~18:00
平成29年1月15日(日) 9:00~15:00
場 所:徳島大学総合研究棟2階 スキルス・ラボ
参加者:10名

内 容:
難治がん、再発、抗がん治療の中止など
悪い知らせを患者(小児では親)に伝えるロールプレイ



終了報告

募集定員20名で開催を計画した。例年受講者集めに苦労しており、今年度も実質8名2グループの予定で企画を進め、最終的に3名の申し込みを頂いた。参加された3名は1名が20代、2名が30代であった。若手の医師は経験が浅く、最初はアイコンタクトが取れない、SPさんの話を遮ったりするなど告知が難しいと考えられたが、他の医師の良いところを素直に取り入れ、驚くほどの成長を遂げられた。30代の2名は自身の告知スタイルを持たれていたり、ガイドラインに沿って淡々と進められるスタイルであったが、2日目には本来の木訥としたスタイルの良さを発揮され、自身の殻を脱ぎ、情を含めたコミュニケーション・スタイルに変化された。いずれも自身の行動形態を変えられ、SPさんとの関係が変わるのを実感して頂いた。今後の活躍が大いに期待されるものとなった。

参加者からも「SPさんの実際の臨床現場を彷彿とさせる演技に驚きました。演技に没入出来ました」「これからの自分の自信に繋がります」と、いずれも高評価を頂いた。

参加大学

Consortium Member



川崎医科大学
Kawasaki Medical School

がん専門医養成コース
●事務部教務課
TEL(086)464-1012



岡山大学
Okayama University

がん専門医養成コース・がんプロ在宅高齢者緩和コース
精神腫瘍医コース
●医歯薬学総合研究科等学務課教務グループ大学院担当
TEL(086)235-7986

がん専門・指導薬剤師養成コース
●医歯薬学総合研究科等薬学系事務室教務学生担当
TEL(086)251-7923

高度実践看護師(がん看護)コース
がん放射線科学コース
●医歯薬学総合研究科等学務課教務グループ保健学研究科担当
TEL(086)235-7984



広島大学
Hiroshima University

がん専門医養成コース
がん専門薬剤師養成コース
がん看護高度実践看護師養成コース
医学物理士養成コース
●医歯薬保健学研究科等学生支援グループがんプロ事務室
TEL(082)257-1538



香川大学
Kagawa University

腫瘍内科系専門医養成コース
緩和医療専門医養成コース
腫瘍外科系専門医養成コース
放射線治療専門医コース
●医学部総務課学務室大学院入学試験係
TEL(087)891-2074



山口大学
Yamaguchi University

腫瘍外科アドバンスコース
腫瘍内科アドバンスコース
放射線治療アドバンスコース
研修医腫瘍専門医コース
高度実践看護師(がん看護)コース
●医学部学務課大学院教務係
TEL(0836)22-2058



徳島文理大学
Tokushima Bunri University

がん専門薬剤師履修コース
●香川キャンパス庶務渉外グループ
TEL(087)894-5111



愛媛大学
Ehime University

臨床腫瘍学教育課程がん専門医養成コース
●医学部学務課大学院子チーム
TEL(089)960-5868



徳島大学
Tokushima University

臨床腫瘍内科学コース・臨床腫瘍放射線医学コース
臨床腫瘍外科学コース・臨床腫瘍栄養学コース
●医歯薬事務部学務課大学院係
TEL(088)633-9649

臨床腫瘍薬剤師コース
●医歯薬事務部薬学部事務室学務係
TEL(088)633-7247

臨床腫瘍看護学コース・医学物理学コース
●医歯薬事務部学務課第二教務係
TEL(088)633-9009



高知県立大学
University of Kochi

がん高度実践看護師(APN)養成コース
●学生課大学院担当
TEL(088)847-8580



高知大学
Kochi University

臨床腫瘍内科学コース
放射線治療専門医コース
臨床腫瘍外科系コース
がん専門薬剤師養成コース
医学物理士養成コース
●医学部・病院事務部学生課大学院担当
TEL(088)880-2263

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム Vol.49

- 編集兼発行者
中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム事務局
TEL 086-235-7023 info@chushi.ganpro.jp
- 印刷所
有限会社 ファーストプラン